

斑点米カメムシ対策(水田周辺の雑草は出穂2週間前までに除草)と

水田の雑草イネ対策(早期発見&抜き取り)について



クモヘリカメムシ



イネカメムシ



ホソハリカメムシ



アカスジカスミカメ



写真:病害虫防除所

斑点米対策(水田周辺雑草の除草)

茨城県における斑点米カメムシ類は、近年、イネカメムシやクモヘリカメムシが主体になっています。

これらは斑点米カメムシの中でも大型で加害能力が高く、水稲の出穂期が近づくと水田周辺の雑草や直接水田へ飛来してきます。また、水田周辺の雑草には中型のホソハリカメムシなどや小型のアカスジカスミカメなどカスミカメムシ類が生息しています。

これら各種のカメムシ類が、水稲の出穂にともない水田内に侵入して穂を吸汁加害します。さらに、水田内で産卵して、ふ化した幼虫が成長し、再び穂を吸汁し加害を繰り返します。

このため、水稲の出穂初期ではイネカメムシやクモヘリカメムシによる吸汁被害で不稔粒となり、激しいと青立ちして著しい減収となります。また、乳熟期以降に吸汁を受けた粒が斑点米となり、等級落ちの原因となります。

これから、水稲の出穂期を迎えるにあたり、**斑点米カメムシ類の生息場所となる畦畔や水田周辺等の雑草は、出穂の2週間位前までには除草を必ず実施**して、カメムシ類の生息場所を減少させてください。

なお、**出穂直前の除草は、そこに生息しているカメムシ類を本田へ追い込む恐れがありますので、避けてください。**また、**出穂期以降は常に、畦畔等の雑草が穂を付けないように管理**します。

雑草イネ対策

「雑草イネ」は、出穂後、極めてモミがこぼれて落ちやすく、独自に交雑を繰り返して、徐々に広がりつつあります。多発生してしまうと、「初中期一発剤」の単独処理では除草効果が不十分となってしまう、**多種の体系処理や手取り除草など総合防除が必要となり、多大な経費と労力がかかり、問題となります。**

この厄介な「雑草イネ」対策として、**発生の早期発見と早急な抜き取りが、重要な防除対策**となります。

<雑草イネの一般的な特徴>

- 1 出穂の時期や草丈、出穂した穂の様子が、植えたイネと異なっている。
- 2 モミの色が黒っぽかったり、収穫した玄米では赤色や褐色などの色がついている。
- 3 モミに芒(のげ)があったり、ふ先が着色している。
- 4 出穂後しばらくすると、風などでもモミがこぼれ落ちたり、穂を握るだけでモミが落ちてしまう、など。

<雑草イネ発生の問題点>

- 1 発生に気付かず対策が遅れてしまうと、3~4年で多発生状況となることがあります。
- 2 農産物検査で、雑草イネの玄米が混じっていると着色粒として扱われ、**混入率が0.1%を上回ると1等から2等に格下げ**となります。また、**異品種混入とみなされて、品種銘柄表示ができなくなります。**さらに、**流通先から返品を求められる**こともあります。
- 3 雑草イネが農業機械を介して周辺の水田に拡散すると、地域全体の水稲生産に大きな被害をもたらしますので注意が必要です。
- 4 混入した雑草イネをある程度色彩選別機で取り除くことが可能です。しかし、(収穫前のモミの脱粒で、雑草イネの種子が水田に落ちてしまうことで)水田から雑草イネが減るわけではありません。

<対策のポイント>

- 1 **雑草イネを発見したら、直ちに株ごと脱粒しないよう抜き取り、水田外に持ち出して、適切に処分してください。**
- 2 発生が確認された水田の耕起や収穫などの機械作業等は、未発生水田の作業を終わらせた後に行ってください。
- 3 既に圃場にまん延してしまった場合は、日本植物調節剤研究協会のホームページ(技術情報の項)または営農ニュース第3033号(4月14日発行)を参考に、**継続的に3年程度の防除体系を実施する必要があります。**

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は JA 全農いばらき ホームページでもご覧になれます。